



あん どう たか し 安藤 隆史 さん

情報学部
総合科学技術研究科 情報学専攻
(2020年3月卒)

日立ヴァンタラ株式会社
(ソフトウェアエンジニア) 勤務

1996年生まれ、岐阜県立海津明誠高等学校
趣味は日本散策 (バイクツーリング・スキューバダイビング)
好きな言葉は「Fear always springs from ignorance (恐れは常に無知から生じる)」

情報技術を学ぶため、国立大学で最初に 情報学部を設置した静大へ

スマートフォンの普及が小型化・高性能化とともに進んだのが、ちょうど私が高校生の頃でした。クラウドと連携した高度なデータ活用が社会で急速に現実化する中で、情報技術に興味を抱くようになりました。静岡大学は、国立大学として初めて情報学部を設置した大学で、商業高校の私にとっても挑戦しやすい入試制度である「専門高校枠」があったことから、入学を決めました。

自ら手を動かし、 設計・開発に没頭した大学時代

大学では、バイクの挙動データを市販の安価なセンサで取得し、データ補正処理によって高価なセンサに近い精度を実現する研究を行いました。データ収集手段そのものも重要であったため、センシングデバイスの設計・開発からモバイル通信を利用したデータ収集システムの構築、データ処理・可視化まで、一連のシステムを自ら実装しました。また、この研究とは別に、個人的な興味から既存技術をあえて自力で再実装するなど、多種多様なプログラム開発を通じて技術への理解に没頭しました。



サイクリング部で北海道ツーリングに参加。重い荷物をつけて連日100kmを走った。

世界各地で稼働するシステムに 製品を提供する喜び

モノづくりがしくて、組み込みソフトウェアエンジニア職に就き、現在、国内外向けブロックストレージ製品のファームウェア設計・開発を担当しています。金融機関や公共性の高い

システムなど、世界各地で稼働する「停止が許されないシステム」に提供されることもあり、高い品質が求められます。基本設計からプログラミング、評価まで一貫して携わり、自ら作り上げた製品を世界中のお客様に届けられることに魅力を感じています。

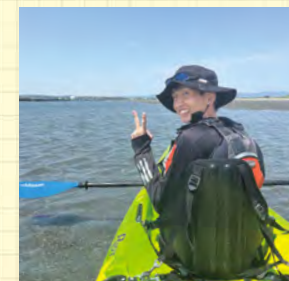
今後は、AI活用で製品の品質向上を 目指す

弊社のブロックストレージ製品には、長年の知見・製品固有設計ポリシーが盛り込まれています。今後はそれら技術資産をベースに生成AIを活用した生産性向上や品質向上の取り組みを加速させ、信頼性を確保しつつ市場ニーズに迅速に応える製品開発を牽引できる技術者になりたいです。



初めて自分でゼロから設計・実装・評価した機能が入った製品(展示用にセットアップ)

失敗を恐れずにまずやってみよう



休日は、海から山まで、行ったことがない場所を知ることを楽しんでいます(写真は浜名湖でのカヤック)。

「知っていること」と「実際にやったことがあること」の間には、大きな差があります。失敗をすることもあるかと思いますが、その積み重ねが、ふとした時に自分の大きな力になります。学生の皆さん、ぜひ失敗を恐れず、様々なことに挑戦してみてください。



いし だ きょう た ろう 石田 京太郎 さん

工学部
総合科学技術研究科 工学専攻
(2025年3月卒)

三菱電機株式会社(設計開発) 勤務

2000年生まれ、愛知県立旭野高等学校
趣味はPC、ボードゲーム
好きな言葉は「首尾一貫」

シミュレーションなど 情報技術も学べる静大へ

高校生の時、得意な数学を活かして情報工学を学びたいと考えていました。静大の数理システム工学科は、数理モデリングや最適化、データ分析といった数学的手法に加え、シミュレーションやネットワークなどの情報技術も幅広く学べるのが魅力で、進学を決めました。在学中は、コンピュータでも解くことが難しい問題に対し、アルゴリズムの構築や探索手順の改良によって、より短時間で質の高い解を導き出す方法を探る研究に取り組みました。現在、センサーの性能を引き出すためのアルゴリズムの設計や実装の仕事をしており、その経験が生きています。



ボーナスで買ったゲーミングPC

卒業後も続く同期とのつながり

学生時代はディスカウントストアで家電販売のアルバイトを6年間続けました。そこで仲良くなった大学の同期とは、大学生活でも互いに切磋琢磨し、卒業旅行ではシンガポールにも行きました。卒業後も変わらず交流が続いており、社会人

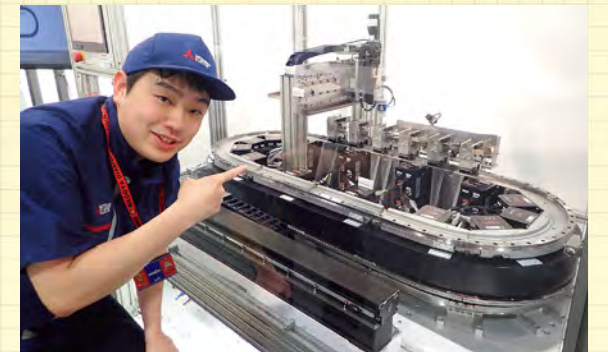


卒業旅行で訪れたシンガポール

になった今も支え合う大切な仲間です。大学生生活の傍ら、アルバイトを長く働き続けた経験から、「継続すること」、「そして「人とのつながりの大切さ」を学びました。

工場の自動化を支える 組み込みソフトウェアを開発

卒業後、ファクトリーオートメーションの分野を志望したのは、工場を自動化することで、人がより創造的な仕事に集中できる社会を実現したいという思いがあったからです。アルゴリズムの設計や実装を担当していますので、与えたプログラム通りに製品が動く瞬間は大きなやりがいですし、ものづくりの面白さを感じています。担当した製品が工場で使われると、「より良い製品を生み出したい」というモチベーションにつながります。将来は、より精度の高いアルゴリズムの設計に挑戦し、自分の技術によって製品の性能や付加価値の向上に貢献していきたいです。



製品に搭載されるセンサーの開発に携わっています。

目の前の学び一つひとつを大切に

学生の頃は、「数学や物理が将来どのように役立つのか」と疑問を持ちながら勉強していました。しかし、実際に製品の設計・開発に携わるようになると、それらの知識を日常的に活用しやすし、数理的な考え方が随所で役立っています。今は将来とのつながりが見えなくても、目の前の学び一つひとつが必ず力になります。ぜひ日々の学習を大切にしてください。

